

歌が生まれる

校歌制作レポート 第12回



イラスト：山崎奈緒

校是との整合性をどう図るか？

ここでちょっと、公募に寄せられた言葉から一旦離れ、学校から発せられているメッセージを見てみます。これらはやはり盛り込むべきでしょう。

- ① **建学の精神**：敬愛・勤勉・聡明
- ② **存在意義**：地域社会をより良く豊かにしていくため
- ③ **使命**：地域に根ざした高等教育期間として研究活動、地域の社会人をはじめとする人材育成を支援し、広く社会に貢献する

①は、実はずっと気にしていて（唯一学外から寄せられていたのもこの3語）そのうちの「聡明」「敬愛」と②③にある「地域」は、そのままではないながらも既に歌の中に盛り込んであるつもり（これについては後述）なので、まだ手付かずの「勤勉」「社会」「貢献」を、～「主人公」は社会とどう向き合い、社会の中でどう在ろうとするか、を描いて締めくくる～ とした最後のCの中で歌えるようにすること、それを今考えています。

いよいよラストスパート。

今回は都合により1ページ増量の3ページ構成です。

町田育弥 Profile

桐朋学園大学で作曲を専攻。中・高等学校教諭、音楽大学講師など常に教育に携わりつつ、作・編曲・演奏活動を展開。作品は、歌曲、室内楽、吹奏楽、管弦楽、劇音楽など多岐におよぶ。著書にピアノ教本「みみをすます」全4巻、歌曲集「あったかい」などがある。2014～2020年まで本学幼児教育学科教授を務めた。現在、本学客員教授、認定こども園恵泉幼稚園（さいたま市）園長。

♪♪♪ 9月3日 レポート

「聡明」「敬愛」「地域」は盛り込み済み… で、「勤勉」は？

聡明 は、～学びの海に遊ぶ命～ ここにあります。8回目レポートで書いたように、遊びは、気づき・思考・行動の生き生きとした循環であり、これは学びも同じ。その循環を単なる堂々巡りではなく螺旋状に昇華させて行けること、聡明さというのはそういうものだとは私は考えます。「PDCAサイクルがあ」などとドヤ顔でのたまう人がいますが、そんなことは「ちゃんと遊べる人」なら君に言われなくてもとくに体で知っている。

敬愛 はここ、～響き合う夢～ に。他者に対して心を開き、思いを馳せ、その存在に謙虚に耳を澄まそうとする、その心の働き＝想像力が「敬意」であり、それなくして誰かと夢が響き合うなんてことは決して起こらない。ところで、私の師匠の三善晃先生は「愛とは想像力である」と仰っていましたが、これは至言。本当にその通り。だから、夢の響き合いは **敬**と**愛**によって起こるのだと考えます。

地域 は、～学びの海／木々の梢／雲の行方・・・に問う～ に「かつて学海と呼ばれた歴史的背景をもち、山の木々や空に問いかけ、対話したくなるような美しい自然環境に恵まれた地域」という意味を込め、表現しています。

そして**勤勉**。これを、まだ書いていない**C**、つまり、～「主人公」は社会とどう向き合い、社会の中でどう在ろうとするか～ を描く場面のはじめに「止まらない歩み」という言葉にして置く予定。これは、「勤勉」から連想する「たゆまず・怠けず・やり続ける」が、応募語にあった「とまらないおれら（の思い）」と、重複投稿されていた「一歩」「歩み」を引き寄せたからで、主調（変イ長調）に戻ってテーマ「ドミレラ＝UEDA」が回帰したところにこれを置くことで、学校という閉じたコミュニティ（ホーム）から一歩踏み出す主人公の姿を描こうとしています。

「社会」は出会いのフィールド 「貢献」は機能する私

何かしらの意志や目的＝（思い）を持って止まらずに歩む主人公（←「勤勉」なんです）は、学校という閉じられたコミュニティの外に踏み出す。するとそれぞれの背後に小さなコミュニティを負った色々な人たちが歩いていて、その歩みの交錯するところに様々な出会いが生じ、そこで互いの思いが「響き合」うと、その振動が周辺のコミュニティ（もちろん、その時「私」が属する小コミュニティも含む）にも伝わって小さな変化が起こる。社会というのは

そういう可変で流動的、絶えず更新され続けるフィールドであり、その中にあって、常に響き合いを起こせる人として機能し続けることが「貢献」なのではないかな？「打てば響く」という言葉があるけれど、貢献するには「打つ」発信力と「響く」感受性の両方が要りそうだと考えてみると、これは、気づき・思考・行動の循環、つまり遊びと学びの話に戻ってきてしまう。いいのか、それで？ ええと…いいと思います。主人公が「聡明」で、このサイクルが螺旋状に昇華していくなれば、一周毎に主人公は初めての高さに立つ、つまり更新されることになるから。ただし、それに自分で気づけないとダメですね。「今自分に起きていることは、いつも唯一無二の初めての出来事なのだ」と。そして、それを面白がれないと。「あ、それ知ってる」と言って、やりもしないでワカッタ顔をする奴は大抵役に立ちません。いつまでも「とまらないおれら」でいてくれるなら、その心配はない。公募語にあった「一期一会」「現在を最も良く生き」「この瞬間が一生輝き続ける」などが、今、こんな私のとりとめない思考と呼応しています。

最終部分 C を作る（全曲を通しての初稿と音源は次回お示しします）

さて、つべこべ言っていないでやりましょう。まず、この部分のストーリーを歌詞と旋律の両面から次のように設定してみます。

歌詞：止まらない歩みで社会というフィールドに踏み出した主人公の思いが他者との新しい出会いを得て響き合う（ただし「響き合う」はBの「夢」と重複するので別の言葉を探す）。そのようにして、いつも、何度でも更新され、その度に新鮮な、初めての私であり続けよう。

旋律：赤は最初の「ドミレラ」復帰部分とその直後に置く。細かい動きでよい。他者と出会いながらの生き方がメインテーマなので青をピークに置く。ここは大きな弧を描く「UEDA = ドミレラ」でゆったり。緑は少ない語数に圧縮して最終フレーズに。伸びやかに羽ばたくような跳躍音程で包み込み、憧れをともなう静かな決意のように。

最終部分C案

「響き合う」の別表現

いつも何度でも

最高音

とまらない あゆみ つながる おもいは ときをこえて であう

それは いつも はじめ ての い ま

一期一会／この一瞬が…など